

## 第2回ゆりはま創生総合戦略会議 議事録

日 時 平成27年7月3日（金） 13時30分～15時00分  
場 所 湯梨浜町役場 2階第1・2会議室  
出席者 中島 守、坂田 康則、宮脇 正道、山田 修平、遠藤 公章、井土美智子、  
尾崎 泰弘、若山 敬之、銭谷 均、加藤 一、伊藤 鈴江、佐伯 健二、  
森田 宏樹、杉本 貴美子、（欠席者：山脇 賢治【委任状】）  
事務局 仙賀芳友副町長、中本賢二課長、岩崎正一郎参事、船木宣孝副主幹、  
鳥取県中部総合事務所地域振興局参事 中本修（コンシェルジュ）

### 1. 開会

（事務局）

これより、第2回ゆりはま創生総合戦略会議を開催いたします。

開催に当たりまして会長であります会長よりごあいさつをいただきたいと思います。

その後、進行も合わせまして以後会長の方からよろしくお願ひしたいと思います。

### 2. 会長あいさつ

（会長）

こんにちは。本日はお集まりいただきありがとうございます。

今、地方創生というのは時代の大きなキーワードになっています。

湯梨浜町も是非、この地方創生ということで、一つは人口ビジョンをきちっと作り、そしてその人口ビジョンを実現するような、総合戦略を練ろうということで、この会は設けられたんだと思います。

第1回目を5月の27日に行いまして、皆様のご意見をいただいたり、あるいはそれより前から、町のほうが町民の方から色々な意見を伺い、それから27日以降も色んなところから意見を吸い上げてきたということだろうと思います。

今日は、こうした意見を元に、あるいは、さらに意見を出していただきながら、この総合戦略に是非この点を入れたいなというのが、もし合意ができればいいし、できなくてもおおよその何か核になるようなものが出来ればいいなと。それを元に町のほうで総合戦略というものを具体的な政策を立案していただいて、1か月後ぐらいにこの会をもう一度設けて、皆さんに確認をしていただきたい、そのような会になろうかと思っています。

いちおう3時まで時間設定をさせていただきたいと思います。

どうぞよろしくお願いいたします。

### 3. 湯梨浜町人口ビジョン、総合戦略の概要（骨子）について

（会長）

ということで、お手元の次第に沿って進めたいと思いますが、先ほどご挨拶しました人口

ビジョンというところから、事務局に説明をお願いします。

(事務局)

まず資料の確認からさせていただきます。

机の方にはレジュメを含めました資料が一つと、人口ビジョンの未定稿と書かれたものと、日本政策金融公庫さんからの提案ということで一枚ものです。それと事前にお送りさせていただきましたが、それぞれの提案・意見というものですが、お手元のほうにございますか。

よろしいでしょうか、そうしますと、まず人口ビジョンのほうから説明をさせていただきたいと思います。レジュメが付いているものの1ページとですね、あわせて参考にとということで、人口ビジョンのほうは未定稿でございますので、特にグラフなどを中心にこちらのほうは参考ということで見ただけであればと思います。

人口ビジョンの未定稿のほうは、まずは4ページのほう、そして、レジュメのほうは1ページのほうをあわせてご覧いただければと思います。

基本的にはレジュメのほうを中心に、簡単ではございますが、ご説明をさせていただきたいと思います。

先ほど会長のほうからありましたように、人口ビジョンをしっかりと捉えてそれに対応する施策ということで、戦略のほうを考えていくということになりますので、その基礎となります人口ビジョンでございます。

現在の人口ということで、直近の人口でございます。グラフのほうの4ページを見ただけであれば湯梨浜町の人口が1960年から2010年にかけて、記載をしております。60年からは若干減ってまいりましたが、本町の特徴の一つとしまして、1970年昭和45年からは、本町は17,000人台ということで、わりと安定した人口の推移を現在までは辿っております。

直近の2010年の国勢調査の人口も17,029人ということで、他町村に比べますと人口減少というのは現在のところでは、際立った減少というのはまだおこしていない状態ではございます。ただ、2005年の平成17年からは、今までは微増していたものが、若干ながら減少しているという数字が見てわかると思います。

さらに、ここには掲載しておりませんが、もう一つ人口を計る手法の一つとしまして、住民基本台帳というものがあります。その中で近年の数字を見てみますと、そちらの方も徐々にではありますが、減少傾向にあるということもあります。

直近の数字ですけども、県のほうの推計によりますと、平成25年2013年現在で16,795人という数字がございます。65歳以上の人口が約28%を超えていますということでございます。

未定稿の資料の5ページをご覧ください。出生数、死亡数の推移と合計特殊出生率を掲載しています。出生数と死亡数がいわゆる自然増減といわれるものであります。本町の場合は、ほぼずっとですが、死亡数のほうが出生数を上回っているということが、このグラフのほうでご理解いただけるかなと思います。

そしてその下です、合計特殊出生率でございます。青の一番下が国の平均値、真ん中が鳥

取県の数値、そして一番上のほうが湯梨浜町の数値でございます。ほぼ、国とか県よりも高い数値できています。近年、合計特殊出生率のほうも増加をしております、直近の調べの2013年では、2.06という数字でわりと他の県とかと比べましても高い数字できております。

次は6ページのほうですが、こちらのほうが社会増減と言われるもので、転入、転出の推移でございます。棒グラフになっておりますのが、総合合計の差引でございます。青い方が転入、赤っぽいほうが転出というものでございます。

2004年平成16年、ちょうど合併した年でございますが、そこまでは本町の場合はほぼ転入超過という状態になっております。ここ近年、合併以降でございますが、転入、転出それぞれの超過が約半分ずつということで、特に近年のここ5、6年につきましては、社会増減の変化があまり無いと、言い換えれば社会均衡は0に近いというものでございます。

その下が年齢別の移動数でございます。概ね同じようなことでございまして、ここの特徴は、15歳から19歳及び20歳から24歳こういった方々の転出が非常に多いという数値、そして都会に出られてからUターンということで25歳から29歳といった年代の方の転入が多いということが、このグラフで分かるのかなということでございます。

7ページでございます。社会移動の中でも県内の移動と県外の移動のグラフでございます。

直近の2014年の住民基本台帳の人口移動報告書によりまして作成をいたしましたものでございます。県内の移動を見てみますと、一番近い倉吉市、そして数的には北栄町、鳥取市ということで、それぞれの大きい転入、転出がございしますが、県内の場合にはほぼ社会増の要因となっております。特に県内合計では、64人の社会増という状態になっております。

そして下の表が県外でございます。県外につきましては、概ね社会減という数字でございます。移動が多いものはやはり近郊であります関西地域、そして中国地域というものでございます。県外合計で見ますと、マイナス39人ということで、県外につきましては社会減の状況が見られると。

ただし、県内、県外を足しまして合計で見ますと、社会増の状態が続いているという数値が見て分かるかなというものでございます。

これを踏まえまして、本町の将来の人口推計をしました。基本的には先回ご説明はいたしましたが、一番近い2013年の数字を使っております。そして、基本的には国の推計方法と同じコーホート要因法というものを使っております。

ただし、合計特殊出生率につきましては、本町の直近であります過去3年間の数字の平均と社会移動につきましては、遞減率を0.5倍にし遞減していくと、その後につきましては、その数字が一定に続いていくという仮定で推計をしております。

その推計が9ページでございます。2010年から2060年の推計をいたしております。

2010年は国勢調査の数字17,029人でございます。徐々に総人口は減ってまいりまして、2060年には11,013人という推計値を示しております。

年齢構成別の人口推移につきましては、下の100%の棒グラフで示しておりますが、徐々に65歳以上の割合が増えていくと、36.5%。そして、年少人口であります14歳

以下の方につきましては、12.8%ということで、現在よりは若干割合的には減っていくであろうということでもあります。

高齢者1人を現役世代何人で支えるかという計算であります。65歳以上の方と14歳から64歳までの生産年齢人口との割合でございます。現在2.18人でございますが、2060年には1.39人で支えるという推計をしております。

ここから必要な措置、総合戦略に伴いまして色んな施策を人口減少に歯止めをかける施策を行っていくということで、次に13ページのほうをご覧くださいと思います。

本町の将来の展望ということで、本町のあるべき将来人口という数値をここで示しております。ここでは仮定値の設定をしております。

まず、合計特殊出生率につきましては、現在は1.89ということでずっとそれが続くであろうと先ほどの人口推計ではございましたが、2030年には総合戦略等色んな施策を行って、2.06人。この数字につきましては、直近の平成25年の数字を仮定させていただきました。

そして2040年平成52年には、国及び県が目指す均衡が保たれるであろうという数値の2.07人、全国ほとんどがこの数字を使っております。2.07人に上昇すると仮定をいたしました。

もう一つ社会増減につきましては、10年にかけてまして移動率を0.5倍に逡減し、ということでこれは先ほどの推計と一緒になんです。2023年それ以降につきましては移動については均衡に達しまして、社会増減がなくなるという数値で設定をしております。

これにつきましては、先ほど見ていただきましたとおり、本町の場合は社会移動のほうは他の市町村、他県に比べましてあまり見られないということで、これまでの状況を踏まえまして社会増減0という数字を仮定してもよろしいんじゃないかということで、仮定をしております。

これを踏まえまして、将来の人口を再推計したものでございます。

13ページの数字が全部で5本ございます。一番下の青いものですが、これが社人研が推計したものでございます。2060年には9,913人になるでしょうということ。町が推計したものが11,013人、その上出生率のみを最終的に2.07人にした数字、そうすると11,419人、その上社会増減のみを2035年以降に0にした場合ということで、11,866人。そして一番上でございます。こちらのほうが先ほどの出生率と社会増減0というものそれぞれを推計した数字でございます。12,368人という数字が考えられます。

本町のあるべき姿といたしましては、2060年平成72年には人口12,000人を確保したいという人口ビジョンでございます。

14ページのほうには、その12,000人を確保した段階の推計値の表を載せております。ごらんいただきますと、2060年には14歳以下の方が1,954人、15歳から64歳の方が6,664人、65歳以上の方が3,750人、そして、高齢者1人を現役世代何人で支えるかという数値が2010年の2.18人から2060年には1.8人ということで、

特に高齢者一人を支える割合でございますが、一度 2045 年あたりまでは 1.4 まで下がりますが、その後回復基調がありまして 2060 年にはまた回復していくという数字を出しております。

最終的に今以上に子育て環境を良くしていくということで、出生率を高めまして新しく生まれてくる人を増やすことでまず自然減を減らしていく。さらには産業振興とか働きやすい雇用形態の条件整備を推進することによりまして、暮らしやすいとか、地域の魅力アップを図る、そういうことによって移住とか定住も促進させまして転出者の抑制と転入者の増を図っていきたいというもを目指していきたいと、いうものでございます。

以上、人口ビジョンにつきましては説明を終了させていただきたいと思っております。

(会長)

今の件に関して、何かございますか。

(委員)

出生率が高いのは何か、色々な施策をされていると思っております。

(委員)

多分ですね、若者の転入される方が多いものですから、そういった関係が一つあると思えますし、子育て、これは施策の効果がどうか言い切れないんですけど、湯梨浜町は、わりと子育て施策を一生懸命やっているそういう関係もあるかなということですよ。

ただそれは検証の方法もありませんし、合計特殊出生率の対象年齢が範囲が広いものから、15歳～49歳からその年代の方が生涯に産まれた子どもさんの数の平均値ということですので、なかなかその理由となるとわかりにくい。そういう状況ですよ。

(会長)

ほかにありますか。

(委員)

どういうふうを考えていったらいいのかなということで、質問するんですけども、日本全体の人口が減ってきている。これは緩やかに減るのか、急激に減るのかというのはあるにしても、減っていくんだろうと。各地域のこれからの人口がどうなるかについては、日本全体でいくと減っていくんでしょうけども、その中でそれぞれの地域が大きく減る所もあるでしょうし、緩やかなところもあるでしょうし、増えるというのは数少ないだろうと思っているんですけど。

それぞれの地域は努力次第で色々な形で推移していくというふうに、普通想像するんですけども、やはりそのように考えておられるんでしょうかね。

そういう見方というのは、常識的にそう考えていいでしょうか。

(事務局)

この推計を出しましたのは、現状を踏まえたのが一つと本町の独自推計には実際には5歳刻みで出しています。今おっしゃいますように、全体は下がると思っております。本町も下がる推計をいたしております。その段階において、社会増減につきましても今の本町の推計値は過去の社会増減が途中で一定にいくでしょうと、0ではなく一定にいくでしょうと推計値をだ

しております。目指す姿のほうには10年後には社会増減が0ですよという推計値で出しましたので、最初に出しました湯梨浜町の推計値よりは高い数値が出ておるとい状況でございます。

(委員)

ちょっと聞き方が悪かったかもしれませんが、日本全体で人口が減っている基調は変わらないけども、その中でそれぞれの地域がどう創生していくか考えられているんですが、各地域の取り組み方次第では減る割合がですね日本全体減る基調だけれどもある地域はグッと減ったりある地域は緩やかに減ったりするわけで、人口の地域間での取り合いみたいなことが起こってくるんで、それぞれの町がよっぽど頑張らないと逆に取られるという認識でよろしいかということです。

(委員)

意識としては強くあります。地方創生そのものが地方の知恵比べというか、そういった面で捉える方もおそらくおられるだろうと思いますし、個性的なことをやっていこうと思えば、地域の特徴とか資源とかそういったものをしっかりと磨いて育てて主張していくことが必要だと。やっぱり政策上、取り合いになるということでしょうね。

(会長)

政策上そうだと思いますけども、国の立場から言うと地方ががんばることによって、国の減り方をもう少しなんとかしたいというのが事実だと思います。社会増減は取り合いの話ですけども、合計特殊出生率の部分は全部が上がれば上がりますので、そういう努力で国としては地方がやってほしいということだと思います。

(事務局)

移住と定住で二つに分ければ、移住のほうは取り合いの話で、定住のほうは会長が言われた施策になってくると思います。

(委員)

はい、わかりました。

(会長)

そのほかありますか。総合戦略をお聞きしてから次のご質問なりお願いします。

(事務局)

資料に沿って説明。

## 基本目標Ⅰ にぎわいと活力あふれる産業のまちづくり

地域資源を活かした個性豊かな産業の振興に努めながら、既存産業の充実はもとより、様々な産業の連携による新たな活力を創出します。

### □農林水産業の振興

- ・ 二十世紀梨等の特産物を活かした「果物王国」の推進
- ・ 新規就農者の増加支援、担い手確保・育成、集落営農化の促進
- ・ 農林水産物や食など地域の魅力を活かした名産・名物の開発・販路開拓

- ・遊休農地及び耕作放棄地解消への対策
- ・東郷池や日本海の豊富な海産物を活かした漁業の振興

#### □観光産業の振興

- ・「グラウンドゴルフ」や「ウォーキング」など本町の特性を活かしたイベントの推進
- ・はわい温泉・東郷温泉を活かした観光地としての魅力向上（滞在型観光・周遊観光の推進）
- ・観光客に対応したWi-Fiの整備、誘客キャンペーンなどの推進（多言語対応、利便性の向上）
- ・戦略的な情報発信と着地型の観光メニュー造成、誘客

#### □商工業の振興

- ・事業所の新設や新分野への進出、新製品開発、6次産業化等に対する支援
- ・地元資源を活用した町内商工業者の振興と活性化の推進

#### □雇用の推進

- ・企業支援などによる雇用の促進
- ・就職情報提供による企業と学生とのマッチング促進
- ・高齢者の経験や知識を活用した就労支援
- ・鳥取県中部定住自立圏域で連携をした雇用創出の推進－企業誘致

### 基本目標Ⅱ 共に支え合い笑顔いっぱいのまちづくり

安心して子育てができる環境を整備するとともに、子どもから高齢者、障がいのある人など、すべての人が笑顔にあふれ、いつまでも健康で生きがいの持てる安心、安全のまちづくりを推進します。

#### □子育て環境の推進

- ・安心して子育てができる保育サービスの充実など環境整備の推進（子育て世代の経済的な負担の軽減）
- ・きめ細かな支援による平等な学習機会の提供
- ・学校支援ボランティアなど子どもの成長を地域全体で支える環境づくり
- ・ふるさと教育の推進
- ・仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）の促進

#### □地域福祉の推進

- ・地域や個人に密着した健康づくりの推進
- ・高齢者が健康時から移住し、自立した社会生活を継続的に営める仕組み（CCRC）の推進
- ・鳥取看護大学による「まちの保健室」との連携

#### □結婚の出会いの場づくりと情報提供

### 基本目標Ⅲ 参画と協働による町民が主役のまちづくり

豊かな自然環境を活かしながら本町の魅力を発信し、都市部からのひとの流れをつくるとともに、町民一人ひとりが積極的にまちづくりに参画し、町民と行政が連携・協働してまちづくりを推進する環境を整備します。

□移住定住の推進

- ・総合的な支援による I J U ターンの促進（多様な移住ニーズに対応する相談体制の実施）
- ・若い世代からシニア世代まで幅広い層の移住定住の推進
- ・鳥取大学等との連携による「地（知）の拠点 C O C +」の推進

□コミュニティ活動の推進

- ・町民や団体が主体となってまちづくりに参加する取組への支援
- ・地域住民が主体的・意欲的に取り組む防災対策の推進
- ・安心していきいきと活躍できる環境づくりの推進

□まちのにぎわい創出や拠点の形成

- ・企業等と連携した買い物やサービスなど多機能なサービス拠点の創出
- ・分散している様々な生活サービスや地域活動の場などをつなぐ「小さな拠点」づくり
- ・地域に伝わる伝統芸能活動や文化資源の活用による交流地域振興
- ・ICTの急速な進化がもたらす社会への対応
- ・地域資源を有効活用した「癒しの地域づくり」
- ・温泉熱・風力・太陽光など自然エネルギーの利活用

（会長）

皆さんのほうで何かございますか。

（委員）

基本目標 I のタイトルの中に「産業」というのが入っていますが、これを言葉だけで読んでいくとにぎわいと書いてあれば想像されるのが産業ですよね。次の共に支え合い笑顔いっぱいのみちづくりという、福祉とかそういった分野が想像されますよね。参画と協働による町民が主役のみちづくりという、協働でまちづくりのやり方、手法の事が書いてある気がします。そういうことになると、最初3つ見た時に「産業」と入っているのは違和感があります、いらぬんじゃないかと思えます。

（会長）

レベルを合せたほうがいいんじゃないかと。町長がおっしゃられたように活力あるまちづくりか、いっそのこと産業と福祉となんとかという書き方ですとか、これはスローガンみたいなものですよ。

（事務局）

これはですね、次年度に向けて総合計画の策定を同時並行で進めています。総合計画自体は次年度から5年間やっていくんですけども、ある程度整合性を保ちたいなということで、引用したという意味もございます。皆様のご意見で、いい方向に変えていければと思います。



(会長)

総合計画のほうを「産業」を取るというのもありますか。

(事務局)

それもあります。

(会長)

ようはレベルを合せたいということですか。

(事務局)

はい、同じように進んでいきたいなということです。

(委員)

ちなみに県のほうはどのような切り口にしていましたか。

(コンシェルジュ)

県は3本立てです。一つ目が大いなる自然の恵みに生きる、二つ目がぬくもりの絆に生きる、三つ目がゆったり刻む時を生きるです。

(委員)

抽象的だけでも、イメージは湧きやすいなと思いますね。そういう感じでイメージが湧きやすい感じにしたほうがいいかなと思います。

(会長)

抽象的に書いて、サブタイトルで産業の活性化だとか、福祉の充実とかそういうのもありだと思えます。少なくとも3つのレベルが揃ってないとダメだと思います。

《基本目標Ⅰ にぎわいと活力あふれる産業のまちづくり を にぎわいと活力あるまちづくり に変更》

(会長)

その他ありますか。

#### 4. 湯梨浜町版地方創生への提案・意見等について

(会長)

次は、町民、各種団体から提案をいただいたものをまとめたものがありますので、事務局より説明をお願いします。

(事務局：船木)

7ページ目でございます。事前に皆様には町民、各種団体から提案等一覧表にしたものを送付させていただきました。これをまとめたものをご説明させていただきます。

資料に沿って説明。

町民、各種団体等からの提案・意見等について（主な提案を抜粋）

基本目標Ⅰ にぎわいと活力あふれる産業のまちづくり

□農林水産業の振興

新たに又は既存の産物を活用する  
フランチャイズによる松茸菌床ブロック生産  
農業施策の振興（稲作、果物等）による担い手の確保  
梨栽培、イチゴのハウス団地整備など法人化による農業の活性化  
漁業の法人化による担い手の確保

□観光産業の振興

温泉を有効活用した観光の振興  
海の資源を活かしたレディース大会  
ウォーキングなど町の特性を活かしたイベントの推進  
既存施設の有効活用  
宿泊客が楽しめる場所づくり

□商工業の振興

企業誘致の推進  
商店等の創業に対する支援  
農林水産物を活用した6次産業化の推進

□雇用の推進

梨栽培、イチゴのハウス団地整備など農業の法人化による雇用の創出  
医療、介護施設の整備・誘致による雇用の創出  
企業誘致による雇用の創出  
自然、観光、スポーツなど地域の特性を活かした雇用創出  
親や祖父の家業を継いだ方への支援・優遇策

基本目標Ⅱ 共に支え合い笑顔いっぱいのまちづくり

□子育て環境の推進

教育レベルの底上げによる大学進学率日本一を目指した教育支援  
保育サービスのさらなる充実  
子育てにかかる経費を削減するための施策  
子ども達に地元に残ってもらえるような魅力のある町づくり・教育  
子育てしやすい環境をつくるため、企業等への啓発

□地域福祉の推進

生涯にわたる歯・口の健康づくりの推進  
CCRCの取り組みなど、医療・介護事業の充実  
龍鳳閣、ゆ〜たうんなどの施設を活用した健康対策  
認知症対策  
遊休農地を活用した「シルバー農園」

□結婚の出会いの場づくりと情報提供

縁結び事業、婚活イベントの充実  
晩婚対策

### 基本目標Ⅲ 参画と協働による町民が主役のまちづくり

#### □移住定住の推進

移住定住支援制度の充実

複数世代同居者に対する支援・優遇策

空き家対策の推進

若者が集える場所づくり

#### □コミュニティ活動の推進

誰でも転入しやすい村づくり（雰囲気づくり）

地域が主体となったまちづくりの推進

#### □まちなぎわい創出や拠点の形成

買い物難民対策（バス、移動販売等）

コンパクトシティ、小さな拠点づくりの推進

温泉熱・太陽光などの利活用

歴史的遺産など景観を活かしたまちづくり

（会長）

皆さんのほうで、ご意見とか、補いたい部分がありましたら、よろしくお願ひします。

今日新たな提案ということで、日本政策金融公庫さんから口火を切っていただけますでしょうか。

（委員）

人口を維持していくには、よく雇用ということが言われまして、雇用の面でいうと調査をした結果、鳥取県ですが中小企業の雇用の割合というのが93.8ありまして奈良県が94.6、全国で非常に高い。というのが大企業といわれる、大企業というのは300人以上の雇用の企業が鳥取県全体では44社しかなくて、中小企業の雇用の役割がすごく大きくて、いかに中小企業を支えていくか、創業とかですね、中小企業の施策は非常に大事だと考えています。

人口ビジョンの6ページでいうと20歳から24歳、25歳から29歳のところで、大学の進学で一旦出られて戻ってくるとうことが、雇用があるかどうかということですが、大企業が少ないもんですから、中小企業に勤めていただかなければいけないということですから、そういった起業をどうやってやっていくか、湯梨浜町の特徴を活かしていくということであれば、健康的な自然が多くてそういうところが売りだなというところで、それに関連する起業というか。

誘致をしても続かない、県も力を入れて誘致されていますが、それだけじゃなくて、新しく起業される方を町がサポートしてあげたり、既存の企業にがんばっていただくというのが大事だと思いますけれども、湯梨浜町では地域資源としては健康を促進するものが、温泉であつたり、スポーツであつたり食材であつたり多い。

あと、ペットのほうが高齢化しており犬・猫で2千万匹いるそうで、ペットの問題はこれ

から深刻化していくと寿命7歳だったものが今は15歳になっているということで、これから高齢者とともペットの問題が出てくるので、そういう自然を活かして、日本海新聞だったんですけど、高齢者の移住を促進することに手を上げられたのが湯梨浜町さんだけだったんですね。そういうこともあってペットを飼っている高齢者に来ていただくということで自然を活かして健康なものは沢山あるので、あと、看護大学さんの協力もいただけるということもあってこういう風に考えました。

周知をどうするのか、施設をどうするのか飼うマナーはどうするのかという問題はあると思うが、切り口としては高齢者の移住をしてもらうためにペットも一緒にというのは、一つの切り口かなと。空き家を購入するときに金融機関のサポートであったり、県の東京事務所を使ったり、北栄はコナンで有名なんですが、マンガとかそういうブームになると周知になるので、そういうことも考えられます。

看護大学がやっておられる、まちの保健室とか地域のコミュニティも一緒になって子育ても支援しながら若い人も一つとなったコミュニティになっていくのかなと、そうするとまちが元気になっていくのかなと思って提案させていただきました。

(会長)

ありがとうございます。

(委員)

先ほどCCRCについてご意見いただきましたが、どこにそういう施設を設けようかとした場合に、若いうちから元気な方たちが来て住まわれる、医療費が80歳を過ぎると沢山かかるようになりますから、そういったことになると介護とかお金がかかるようになるから大変だと言って、迷っておられるところがあるわけですが、それを考えるときに実際に持ってくるとしたらどういうところがいいだろうと、いうことを考えまして、この間知事のほうがちょっと言っておられましたけども、お金の面ではですね、来られた人が歳をとって来られた時に、そこに存在している施設がみんなお金をみななければいけないというのはおかしいから、それは今の特別養護老人ホームにとかに入る人のように、住所地特例といって従来住んでおられたところがお金をみますよといった仕組みを作ることも考えられるわけです。

そういったことを念頭に置きながら、どこがいいかと考えた時に、湯梨浜は綺麗な景色もあるし、温泉もあるし、短大も看護大学もあるし、福祉施設も沢山あるし、お年寄りが楽しむグラウンドゴルフもウォーキングも出来るし、やるならここが一番ええわいというような気持ちでわれわれはやりたいという気持ちで手を上げさせてもらったところです。

(会長)

今日の資料の最後、7ページ、皆さんからご提案いただいた主な提案の抜粋ですが、この中に地域福祉の推進、基本目標Ⅱのところの2つ目ですが、CCRCの取り組みなど、医療・介護事業の充実、これが今のある程度元気なお年寄り、中高年の方を都会から呼んで、そして、健康あるいは医療が必要なときは医療・介護というCCRCというのがあるんですけども、これを見つつその部分と次の龍鳳閣、ゆ〜たうんなどの施設を活用した健康対策、認知症対策、シルバー農園全部一体化できますということや、あるいは上のほうの観光産業のと

ころのウォーキングとか温泉とかというのも全部いけるのでは。ようは、一つで考えるんじゃないなくて、今の色んなそういう方々に来ていただいた時に、全部をトータルに活用していただきながらやってくという考え方もありますし、下のほうに空き家対策、僕は空き家をどんどん活用していてもいいのかなと思ったりして、それも一つかなということは思ったりしてました。

その時に大学として必要だったら、からまさせていただくということもあるかなと思います。

そういうような形で、どんどん何でも言っていただいて、皆で作っていきましょうということなんで、自由に意見を出してください。

お考えがなかったらパスでいいんで順番に回っていきましょう。

(委員)

発言が難しいというのが、自分の実力っていうのがよくわかってない。提案した内容がもう既に検討されて、難しいなってことなのかそのあたりの加減が分かりづらいんで。

会議のほうで意見を出してくださいということで、まとめておられますが、アイデア集5ページのほうに書かせていただいておりますが、かいつまんで説明させていただきますと、東郷湖畔を中心とする医療・介護施設を充実させてはどうかということで、スローガンとしまして「福祉と健康の里湯梨浜」ということを全面に打ち出して先進医療が受けられる滞在型医療施設を誘致する、それから米子の旗ヶ崎あたりに工場誘致されましたけれども、医療の介護補助のメーカーがきておりますが、そういうところと連携して介護福祉あたりにも重労働だと言われておりますが、それを軽減できるようなモデルハウス、全国からでも視察に来るようなそういうモデル型の介護施設ができないかなと。それから、鳥取県が意欲を示していますCCRC、これにつきましては、昨日ご縁がありまして会長のお話を伺いました時に、どちらかと言いますとCCRCは老人を受け入れるイメージで皆さん捉えられているんですけども、中高年を受け入れて地域のために働いていただく、働き甲斐を見つけていただく、そして、介護が必要になった時、そちらのほうで面倒を見ていただくといえますか、そういうお話を聞きまして、我々が考えていた県が説明している形とは違った形があるんだなということを思いました。

その他につきましては、資格取得に必要なコースを藤田学園様に設置していただきまして、資格を取りやすいようにする。また、資格取得の補助金制度を充実すればもっと介護のほうで充実するのではないかなと思います。

それから定住促進事業としましては、空き家を利用して、都会のほうから体験で農業とか漁業とかそういうことでこちらのほうへおいでいただきます。将来的には、農協さんとか、漁協さんのほうへ就職する、そういうことも視野に入れながら体験をしていただいたらどうかということも思います。

それから若者や宿泊客が集えるということですけども、現在中部地区には若者達が集うようなボーリング場とかそういうアミューズメント施設というのがありません。

みなさんご存知のラウンド1とかマルハンそういうところを温泉の空いているところに

誘致できないかなということも思います。

それから東郷池を利用しましたカヌーですとかウインドサーフィンそういうものを進めてみてはどうかと思います。

それからインフラの整備ですけども、道路網の整備ということで湯梨浜町が通過点にならないように倉吉の窓口になる、そういう観点から道路を整備してはどうかというふうに思います。

あと中部地区で引き合いになっています美術館の誘致ですが、ひいき目に東郷湖畔に持ってくるというのが一番いいのではないかなというような考えでおります。

ほかに既存施設の利用促進ということで、湯梨浜町内には県有施設が結構ございまして、それがほかの町と違うところだと思います。その利用促進を進めるためにも利用料の補助ですとか、そういうことも考えていただければと思います。

それから湯梨浜NPOということで書いてますが、先日行われましたトライアスロンも未来さんのほうが担当されたということで、湯梨浜NPOっていう形がいいのか悪いのか、中部全体で考えたNPOのほうが色んな調整ができていいのかなということも思いますが、湯梨浜ライオンズクラブというのも立ち上がっているようですし、そこを母体にするようなことも考えて、湯梨浜のイベントをNPOで運営できないかなと思います。

最後ですけども、ハワイのパーキングエリアが県の防災拠点になるということで、近々整備されるようです。そこに観光案内所とかをもう少し充実させまして、PRが行えないかなと、そういうことを考えてみました。以上です。

(会長)

ありがとうございました。次の委員さんお願いします。

(委員)

ピンとはずれになるかもしれないですけど、湯梨浜、県、国は人口の分散化を狙っているんじゃないかと。その分散をするのに何が必要なのか、創生会議の中で何を考えなければならぬか、あれこれやっただけでなかなか続かないと思う。そうすると、大きな目標一点だけに絞る。あるいは2つ、3つに絞る。それに関連付けた色んな政策をする。今関連付けた政策を5カ年です。その中に結構入ってしまっている。それを横滑りにここに持ってきていかがですかという会議だから、じゃなくて、ここでこうなんだよっていう大きな方向性を作って、それによってどうですかということ。

人口を増やすのはどうすればいいか、ということを考えればおのずと産業部門の色んなところで出てくると思うんです。この間書類もらって見ても、その辺がピン트가ずれている気がしている。

ただ、自分自身がどういう方向付けを持っているとかというと、私もまだ勉強不足ですから持ってないんですけどね。そう形で進めるべきじゃないかなと思います。

(会長)

ひとつお聞きしますので。なければパスで結構です。

(委員)

もちろん定住人口増やすことはとても大切ですが、国全体ではなかなかこの流れを増やす方に持っていくのは、どうも今の現状では不可能だろうと。あとはそれぞれどんな具合に打っていくかと。全体から言えば減るのは抑えきれないんじゃないかなという気がしております。

ただ交流人口はやり方によってはかなり増やせるんじゃないかと。湯梨浜にはそういう魅力が沢山あるんで、東郷湖周辺には山があったり、川があったり、海があったり、どこを取ってもどこにも負けないすばらしいところがあるので、そこにどれだけ人をもってくるかと。

目標Ⅰのところに、にぎわいと活力あると書いてありますので。やはり交流人口が増えれば当然経済も潤うし、定住する人も増えてくるんじゃないかなと思います。

簡単なわけではないですけども、定住人口を増やすより交流人口を増やすほうがやりやすいんじゃないかと。皆さんいい知恵がありましたら教えていただきましたらと思います。

(会長)

次の委員さんお願いします。

(委員)

私は5ページの真ん中に書いておりますけども、湯梨浜の一生懸命未来を考える将来湯梨浜のリーダーになるような子ども達を育てられんもんかなというのを載せております。

さっきの社会増減のグラフでもわかるとおり、高校を卒業した時点で県外に出て行って、帰ってこないというのが県全体、地方どこでもそうだと思いますが、大きな問題になっていて、東京を中心とする都会への人口集中の大きな要因となっているんですが、直ちに帰ってこなくても、我がふる里に対していいイメージを持ってる、あるいは、自信があるというか誇りがあるかどうか、非常に疑わしいと僕は思っております。

わが県、わが町に対して何にもないつまるところだと思ってる若い子ども達が多い。

話してみるとよく知らない、中島さんが言われましたけども、この地域は本当にいい、自然にしても人の人情にしても、大変いいところがあるんですけども、そういうことも知らない。それから進んだ先進的な施策があるかもと知らない。もうちょっと伝えれば、かなり理解できるのではないかと思っております。

私は〇〇高校の卒業生なんですけども、知事がこられて生徒に話をされて、鳥取県はこういことをしてると言われたら、へーそうですかとびっくり仰天してわが県っていいですねと。私も卒業して県外に出るかもしれないですけど、必ず戻ってきますなんてそういう回答がですね結構多くて、別にヨイショしてるわけじゃないと思うんですよ。

そういう意味で色々伝えることが多いんじゃないかなと。一方で企業誘致の話がありますが、雇用の場を確保するという問題が確かにあるんですが、もっと今あるにも関わらず、それを言う例が多いんじゃないかなというのを実感しております、これは湯梨浜町だけでは出来ないの、地域の中で、中部地区全体で取り組むとかということが必要なのかなと思っております。

私〇〇町の人間ですけども、外の町から見ると大変魅力的な素材が沢山あるんですね。

こんな町はあんまりないんじゃないかなと思います。温泉もあり東郷池という素晴らしい

景観がある。ブランドになっている食べ物がある。こんな所はないんで、今おっしゃるように、住んでみたいという人は沢山おられるんじゃないかと思っております。

だから総合的に進められるのはいいんですけども、何もかにもしなくても、ここの町が既に強みとしてブランド化されたもの、子育てしやすい町というそういうイメージがあると思うんですけど、そういうのを磨いていくべきだと思っております。

あと、足りないところは中部地域で分担し合うとか、同時に大事かなと思っております。  
(会長)

では次の委員さん。

(委員)

私たちの所は、移住定住っていうのが若者がわりと定住してくれてます。空き家が増えないか、探してくれないかというぐらいですけど、空き家というのもきちっとしたものでなくて、例えば豚小屋を自分たちで改修して入ってこられたり、若い人たちが自分たちで作ってあげて、地元の人にも手伝ってもらったり、私たちでは考えられないような、普通移住定住って言ったらモデルハウスみたいな感じにして、どうぞ体験してくださいとか、そういうのが多いみたいですけど、そうじゃなくて、皆の力で地元の人と一緒に作り上げていて、そういう方が10人くらい定住してますし、滞在施設の「たみ」という若い人たちがしている宿があるんですけど、そこと連携して私の町内はわりと関係している人が多いです。

だから、移住にしても定住にしても私たちの考えている事よりも、そういう若い人たちの話をよく聞いて進めていったらいいんじゃないかと思えます。

それから、5カ年計画ということで、進めているみたいですけど、今まででも5年計画、10年計画で色々やっておられますけども、5年間して成果がありましたというのが、あんまり見えてこない気がするんです。あんまり幅を広げずに、5年間の間に5つに分けて初年度はこれに集中する、次の年度はこれに集中するというような、一つずつに分けて進めていく方が成果が上がるんじゃないかと思えます。

(会長)

いいですか。それじゃあ次お願いします。

(委員)

私は6ページ一番上のところです。湯梨浜町は漁港もあって、海水浴場もあって、水質も良くていい資源があるので、女性を居つかせたら男性もひっついてくるかなと。地元にはそれぞれやりたいことは沢山ありながらも、単体ではなかなかできないので、グループになってサーフショップで大会やりたいとか、体験とかやって、いいところだなって若い女性、学生とか住んでみたいと思えるようなきっかけづくりをしていけたらなと、今日提案しました。

ここには書いてないんですが、湯梨浜町内に家を建てたいという建築業界から声があるんですが、なかなか住宅地の供給が無い状況がありまして、若い世代が田後、長瀬地区を探してらっしゃるんですけどもなかなかないということです。

今、琴浦町のほうでは町が住宅地を供給し、住宅建築が結構進んでいます。住宅地の供給。



空き家を町が寄付を受けて貸し出して、その土地に住宅建築というのものもあるのかなと思いました。

(会長)

次の委員さんお願いします。

(委員)

私女性団体の代表できておりますけども、やはり湯梨浜町の良さが地元の方たちにPRできてないんじゃないかと思うんです。私は他県から来て、この湯梨浜の良さがすごく関心されますもので、もっと町民自身が意識を持って湯梨浜町の良さをPRしていただけたら、もっと若い人たちも、それから年齢重ねた方も戻って来られるんじゃないかなと思うんです。

それから、文化的なことがちょっとどうかと思うところがありまして、アロハホールをもうちょっと活用していただいて、アロハホールはすごくいいホールなので、どんどん活用していただけたらと思います。

(会長)

次の方どうぞ。

(委員)

うちには4人娘がいて、湯梨浜町の出生率を上げている要因になっているのかなと。

保育料が安い、どの程度効果が出ているのかわからないと言われた方があったと思います。私自身は、東郷町で生まれて一旦倉吉市に嫁ぎました。その後、保育料が安いと聞いて羽合のアパートに引っ越したという経緯があったので、私たちの世代の中では保育料は湯梨浜町が安いよというのが結構話に上がっています。

ただ今現在は、北栄町の方が安い？

(委員)

北栄町の方が安い部分がある。三朝と北栄はうちを基準にしてところどころ安い部分があります。

(委員)

私ぎりぎり35歳でこの場に来させていただいて、知らないことを沢山皆さんから教えていただいて、すごい勉強になるなと思っているんですけど、若い世代の人っていうのは私も共働きなので、先の事を考える余裕があまりないというか、仕事を一杯までして家に帰ったら子ども達が待っていて、ご飯してお風呂に入って寝る。それでまた朝、仕事ってなるとなかなか先の事をじっくり考えることができないなと思います。

もうちょっと若い人が余裕を持って、先の事を考えたりとか、湯梨浜町の事を考えられるような施策を、今も十分していただいているとは思いますが、していただければと思います。

仕事柄ですけども、子どもを育てるのに大学を国公立まで行かせたら1千万くらいかかるといわれています。私の産んだ時はそこまで考えずに産んでしまったので、楽観的な人は子どもをどんどん産むかもしれないですけど、先の事を考えてそういうのを計算しておられる方は、一人増やすとなっても今のままだったら難しいなということで、2人目、3人目を

控えておられる方もあるんじゃないかなと思います。

なので、湯梨浜町は子育てにすごい熱心に取り組んでるんだよというのを、全国から見てもえーそこまでしてくれるのを、バーンと打ち出してもらおうと注目を浴びて来られる方もあるんじゃないかなと思います。

あと、フェイスブックとかツイッターとかしておられる方もいらっしゃるんですけど、私もフェイスブックをしているんですけども、この前よその町村さんが町のフェイスブックを立ち上げられていたんですけども、そこで町村の取り組みが若い世代の人達は結構そういうの利用しておられる方が多いと思うんで、見てよくわかるなと思いました。そういうのを作っていただくと若い世代の人達が見るんじゃないかなと思いました。

(会長)

はい、次お願いします。

(委員)

地方創生っていうことで、まちづくりという考え方で僕なりに考えて、花をテーマにしたまちづくりというのを考えてみました。

自然が、東郷池があったり、温泉があったりして、美しい池を望みながらその周辺を花で彩り町を明るくしようっていう、季節に応じた花が所々あって、池周辺だったり、あやめ池も整備されてて、今、菖蒲が見ごろで、羽合臨海公園も緑が一杯で、花を整備しやすいのではないかとということで、今よりバージョンアップしていけば観光が潤うのではないかと思います。

町のイベントでノルディックウォークもやられてて、たまに僕はジョギングで走るんですけど、その時に結構多くの方が池の周辺で走っておられるんです。そうした中で、気持ちよく走れる、町の名勝、見どころができるのではないかと考えています。

僕が3年前くらいに東京から戻ってきて、その前にヨーロッパに旅をしてスイスに行った時に、すごい美しい湖があったんですけど、その周辺は観光客が花だったりワインが有名なんで、ぶどう畑だったりあるんですけど、そこは観光地化されてて、そういう自然人は集まることもある、そういう経験をしました。

(会長)

はい、それでは次の委員さん。

(委員)

私も本部とかと話をする機会がありまして、先ほど委員さんがおっしゃられた事と一緒になんですが、金融機関の中において、私の店がある田後地区というのは、湯梨浜町内の中でも人口が減らずして増えている地区であるというふうになっております。

要因とすれば、詳しくは分かりませんが、住む土地が過去に確保されてそこに住まれたということが一つの要因であろうかということが事実ではないかと思います。

農業政策とのからみというならば、これはちょっと難しい話っていうことは重々分かっているんですけども、先ほど言われた住みたい方というのは、実は沢山いらっしゃるって、かつ、湯梨浜町内には、非常に沢山個人住宅を建設される業者もいらっしゃるって、そういう方々に

聞くとやっぱり遠藤さんが言われたとおり、土地さえあればということは言われるのが事実なんで、目先の事で言うならば、そういう施策が将来の湯梨浜町の、中学校も建設される中であってですね、町のランドデザインといいますか将来に渡るそういう構想の中でですね、短期的な話になるかもしれませんが、土地というものが今は磯なぎと橋津ですかね、そこしかありませんが、非常に魅力がある田後地区あるいは長瀬地区の中で、一部でもそういったことができれば、確実に増えるというふうには考えています。

ただ、これは現実論で難しいという話というのは良く分かっているんですけども、産業振興とか色々する中であっては、将来的には検討されてもいいんじゃないかというふうには考えております。

もう一つは、意見についても出ていますけども、湯梨浜町は農業と観光というところだと思いますので、沢山いい一次産品を作っていらっしゃる方がいらっしゃいますので、湯梨浜町内の中にある無いものねだりではなく、いいもの探しという中では、そういう一次産品のいいものをうまく、俗にいう6次産業化ということにはなると思うんですけども、マッチングさせてですね、加工して販売できるような仕組みっていうのが作れないのかなと思います。

どうしてもイチゴっていうものは色んな所で作ってますから、それだけではなかなか勝負できないんで、うまく加工するとか、あとはイメージするのが鳥取のひよこカンパニーさんをイメージするわけですけども、卵とかですね、ああいったものを町内のものを組み合わせる中で新しい産業なり、商売っていうのが可能性があるんじゃないかなと思います。

具体的に何をというのがちょっとまだ考えていませんけども、いいものが沢山ある中でそれを集める中で何かできないかという仕組み作りとして考えていくことは、非常に必要ではないかというふうに思います。以上です。

(会長)

はい、じゃあ最後をお願いします。

(委員)

2060年に湯梨浜町に住まわれる方、若い世代の方のアイデアというのが働き盛りの若い方の意見が集約しにくいんでしょうけれども、年代別での意見がどうなのかというところを、もう少し知っておきたいなという、若い方の意見、今私たちが考えているのが若い方のニーズに即していないというのもあるのかもしれないし、そういうところも知っておきたいなというふうに思いました。

(会長)

ひととおりご意見伺いましたけれども、もうちょっと言いたい、もうちょっと補足したいということがあれば。

町長さんお聞きになって何かありますか。

(委員)

貴重な意見いただいて、結局は国としては地方創生の中で地方を元気にして国を維持していくということで進めている。そういったことでまちづくり、人づくり、しごとづくりそれらをやっていくということで、今日の話伺ってまして、メリハリを付けてといいますか、そ

ういったことも大切だと、沢山網羅して同じレベルでという話じゃなくて、これは特に力を入れていきたいということも主張していく、まちの優れているものを前面的に出していくことも。若い人の意見は何かで聞いてましたね。

(事務局)

はい、こども園の保護者の方とか。

(委員)

そういったこともやっておりますし、多くの人の意見を聞いて。

今日言っていた意見は一つ一つ私ペーパーに書いて、こう思ってますというのを送らせてもらいます。

(会長)

ほかに皆さんいかがでしょうか。

(委員)

数年前に湯梨浜町は竹林調査されたことがありますね。あれをうまくこの度の一つの目玉みたいにもっていけたらと思うんですけどね。

(委員)

いわゆる竹林の活用ですね。

(委員)

これは鳥取県だけじゃなくて、全国どこいっても頭抱えている問題です。

湯梨浜町内、眺めるだけでも年々何十パーセント増えてるかなというぐらい。

若干、若竹を生産しようとする動きのある東郷の辺で見られますけども、そんなちっちゃいことじゃなくて、もっと大規模に一山開発しちゃうんだと、というようなことで色んな問題が解決するんじゃないかなと、雇用の問題、住宅の問題、若い人だけじゃなくて、シルバーの方から。

(委員)

一つは、センコーが石脇の山を竹林整備がらみでやっていただくということになりまして積極的に進めていきたなと思っておりますけども、それと、地域のランドデザインを描くべきじゃないかということで、土地さえあればという話も今日出てまして、実はこの地方創生の話を進めていく中で、これまで湯梨浜町には工場誘致するいいような場所が無いとか、出たわけなんですけども、県営住宅や町営住宅をどうするのかということも、その場に立って議論してたわけなんですけども、一歩進んで何するにはどこの土地があるかいなという作業を一回きちんとやってみないけんなど、この間から感じて職員にも話したところです。

そういう作業を地方創生の中でやって、人が来られるようなことができるようにすることが大事かなと思っています。

(会長)

色んなご意見いただきまして、一方で非常に多様な意見、一方での絞るべきだという意見、なかなか難しいところもあると思っておりますけども、町長さんがもちろん音頭をとって皆さんのご意見を踏まえながら原案のようなものを次回作っていただき、それにまた皆さんから

ご意見をいただく、そんなやり方をしたいと思いますが、今日は言い足りなかったなのでこのことだけは是非入れといてくれという事があつたら、一週間限定でちょっと時間を置きますので、一週間の間に企画課のほうに意見を言ってください。

もちろん、今までの意見はできる限り入れようと思いますが、ただ、地方創生となじまないものの中にはあると思いますが、そういうものは、今ちょうど並行的に総合計画をやつて、そちらになじむものはそちらに入れたほうが良いという仕分けはされると思いますし、生意気ですが両方に関わつてますので、私も事務局と一緒に作業に関わりたいと思います。ちょっとご一任いただければと思います。じゃあ次回は。

(加藤委員)

その他でよろしいでしょうか。

(会長)

はい、何かありますか。

(委員)

この地方創生、地域ごとの知恵比べになっていると思うんですけど、ひいき目に見てますが湯梨浜は元気だという。この地方創生で伸びるところもありますし、そうでもないところもあるかもしれない。近いうちに中部が一つに合併ということもありうると思うんですけど、県全体のバランスは県庁があると思うんですが、中部地区のバランスをとるような会議というのはあるんでしょうか。

(委員)

はい、一つ知事も交えて県単位でやるのと、それからもう一つは中部地区で総合事務所が今日、コンシェルジュに来ていただけてますが、音頭をとって市町村長が集まって議論する場と二手でやっています。

(会長)

役割分担していると。じゃあ。

(事務局)

はい、本日の資料の一番最後のページをご覧ください。スケジュールを掲載しております。人口ビジョン、こちらにつきましてもご意見があれば、早めにご意見をいただければと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。10日までにお願いいたします。

それと、次回の会合ということで総合戦略の中を見ていただければと思ひます。

第3回を8月上旬のほうに開催をさせていただければと思ひしております。

といいますのが、その間に町の議会のほうへの報告だとか、それまでに纏めまして皆様のご意見を聞いて上でパブリックコメントのほうにかけさせていただければ、思ひしております。

その後、パブリックコメントの内容を考えながら、必要であれば9月上旬に再度開かさせていただきますので、その後また議会のほうに協議というスケジュールで進んでいければと思ひしております。

次回は8月6日木曜日の10時から開催したいと思ひますが、よろしいでしょうか。

※日程調整の結果、8月6日（木）10：00～に決定。

（会長）

いちおう先ほどのような手順で原案みたいなものを議会に出して、何かもうちょっと言っておきたいということがあったら、一週間のうちをお願いします。

ということで終わらせていただきます。どうもありがとうございました。